

●第 5 回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 7 月 28 日増水のため中止

台風 6 号の影響で増水が引かず準備していた場所が使用不可能で中止となる。今年の第 5 号や第 6 号の台風は神出鬼没で、変化も早くしかしスピードは遅く雨が強く降りました。台風が来るまでは曇天が続きました。いずれも魚とりを計画しているものにとっては厄介な台風でした。第 4 回 7 月 21 日では水位が下がらず一端は中止を当日受付で決定スタッフに周知しました。ところが現地検の判断時で実行可能となり、急遽行うことが出来ました。現地では中聖牛にまで増水していましたが聖牛の影響で砂洲が盛り上がっていて本部席にしました。また聖牛の水溜まりもできていて魚が見つかりました。しかし増水のため流れのはやい本流はとても無理でした。かなり厳しい条件で危険と隣り合わせの催しになりました。続いて 28 日は水位が竹蛇籠スッポリのみ込んでいて、高水敷の手前に水位が迫っていました。前日の土曜日の正午過ぎ強い雨が続き水位の低下は見込めないと判断して、中止を決定しました。今回からメールでの受付になっていたのも、ぎりぎり開催の可能性を追求できる時間的余裕が生まれました。はがきでの連絡だとそのような時間はなく決定を早くおこなわなければなりません。余裕を持つことが出来ました。これまでハガキでの申し込みは一通もなく F A X が数通だけでした。メールで中止の連絡を行いました。当日の朝には開いておられなかったり、メールが届いてなかった皆さんがかなりおられました。集合地に集まってこられて携帯での確認となってしまう事態もありご迷惑をおかけしました。最後まで連絡が出来なかった数人のみなさんには、水位上昇の現状を確認いただくために玉水浜に案内しました。水流の勢いや水位を見て、とても子どもには不可能とわかってもらいました。自然を相手のイベントでは取り組みやすい場所を見つけ、安全を確認し、これならと自信が確定して初めて実行と決断できるものです。それぞれ年齢の差や体格や体力の差、そして参加者全員を考慮したうえで可否には神経を使います。いずれにしても水難事故は慎重の上に慎重に行い、参加者の期待にも答えるべきだと思っています。特に河川レンジャーは水での事故を防止する講習会を受けて判断を誤らないよう万全を期して取り組んでおります。

●梅雨明けで一挙に高温続きに 夏野菜も急成長 梅雨明けの翌日は一気に 31 度に上昇しました。太陽も顔を出してくれたので、大変暑い天気になりました。この傾向が少し継続するということで、熱中症などが心配されます。自主的に水分補給を行うことで防ぐことが出来るといわれています。無理をしないことですね。100 円コーナーでは朝採り野菜として提供していますが、正午過ぎには随分と野菜も熱を帯びており、新鮮度が落ち込んでいるようです。夏季特有異常気温が続くこの時期には、万一事故を防ぐためにどう対応するのか検討しています。昨年までは「すだれの屋根の取り付け」で直射日光から野菜を守りました。今年もいよいよ猛暑が続きますので、何かいい手段があれば対処していきたいと思っています。とりあえず気温がぐんと上がる前(正午ごろ)には店じまいするのが一番の作戦ではないかと思われま。いつもごひいきにいただいている皆さんには、できる限り 8 時過ぎにはお越し願えれば幸いです。気温が上がる前に店じまいが出来るように心がけるつもりです。ご協力をお願い申し上げます。

●8 月 3 日は「第 6 回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 40 家族 110 人で実施」の予定 里山の会での人気は夏はやはり木津川での「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」でしょう。子どもたちがどこまでも広く大きい青い空の下で水しぶきをあげられるのがいいと思います。そして、すいすいと泳ぐ魚がきらきら光るのに目も輝きます。それが保護者も一緒に遊べるのですから、過去最高の申し込みは

800 人を超えるハガキが届きました。今年はメールを取り入れるとハガキは全くなくなりました。連絡に時間がかからなくなりました。随分と便利になったものです。私たち里山の会が準備できるライフジャケットは 100 人分しか借用できませんので 700 人はお断りしなくてはなりませんでした。小さい子どもたちに悲しい思いをさせるわけにはいかないと、体力的に大きな負担になりますが、回数を増やして子どもたちに木津川に接していただける機会の増加をと考えました。あれから 10 年経過しました。スタッフの高齢化も進みました。これ以上開催回数を維持することは難しくなっています。スタッフの人数確保もかなり難しくなっています。川大好きと言ってくれる子ども・川ガキ育てに一役買っていただく方を強く求めています。ご協力をしてくださる方ご連絡をお待ちしています。

●8 月 4 日は第 7 回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 49 家族 150 人の申し込みで実施の予定

いよいよ今年最後の魚捕りになりました。相楽地域の皆様を中心にした募集です。なんと一番早く定員に達しました。150 人のご参加となってこの夏最大の参加者です。これだけの方々に楽しんでいただける魚が生育しているのでしょうか。いささか心配です。毎年最も多くの応募があったのは相楽地域（木津川市域）です。案内チラシは小学校の協力を得てこれまで届けることが実現できてきました。今年も配布をお願いしたいと木津川市教育委員会にお願いに行きました。係の職員から今年限りにしてください。来年からは木津川市の小学校では配布しないことになっておりますとの通告をされました。大変驚きました。この取り組みで最も多くの応募があり関心をお持ちの地域で断りの話になっています。期待されている保護者と子どもたち、そして木津川は山城の真ん中を流れる川で、ここを通じて地域を学び歴史を知り、自然を感じられる最も優れた場所での協力をいただけないとは寝耳に水でした。私たち里山の会は全員無報酬で、いい川を作ろう、いい自然を伝えようと日夜努力を重ねています。今回のお話は大変残念なことでした。山城教育局管内で初めての出来事になります。各自治体の教育委員会からはそう言った通告は聞き及んでいませんが、これが拡散することを大変危惧しております。

●木津川は、淀川水系で最後まで自然の中で天然記念物に指定されているイタセンパラが生育していた自然豊かな川です。少し手を加えれば復活も夢ではないと里山の会は考えております。これまで数回この取り組みに助成金の申請を行ってきましたが、今回初めてトヨタ自動車の「環境活動助成プログラム」に応募したところ、第 1 次審査を通過したとの連絡が 7 月 30 日のメールで届きました。里山の会が考えていることが少し認められたと思います。引き続き第 2 次審査も通過することを強く期待しております。たとえこの審査に合格しなくても、誰もが復活を願っておられると思っています。これを機に少しずつ少しずつできることからことを始めたいと思っています。復活への意欲をお持ちの皆様の力を合わせて息長く頑張ってみませんか。長い取り組みになるでしょう。功を焦らず地道に活動を続けていこうではありませんか、賛同者をお待ちしています。

